

## 大会コントローラーの報告

大会コントローラー 佐藤 時則  
大会コントローラー補佐 堀出 知里

### 1. 大会日程について

本大会を矢板・塩谷地域で開催するにあたり、既に茨城県那珂郡那珂町での開催が決定されていた全日本リレー大会の翌日開催するか否かについては、実行委員会において議論となりました。全日本リレー大会の翌日に開催することとなれば、遠方からの参加者にとっては負担が減少し、また、一般参加者も誘引できるメリットがありました。ただし、実際の運営にあたっては、全日本リレー大会終了後に電子パンチングシステム等を移動して本大会を開催する方法は、運営に無理を生じさせたと思います。本大会に遠方から参加してくださった方、また、日程的に本大会への参加を見合わされた方には恐縮ですが、事情を酌んでいただければありがたいと思います。

### 2. 競技者の欠員について

本大会においては男子4名、女子16名の欠員が生じ、再度枠の配分を行いました。学生併設大会を含めた参加者が減少する中で、今回のように多数の欠員が生じてしまうのであれば、競技者数を定めた規則の改正について検討をする必要があると思います。残念ながら「インカレショート」は今回をもって終了する予定ですが、新しいインカレの開催体制の中で議論をする必要があると思います。

### 3. ウィニングタイム(想定優勝時間)の設定について

男子のウィニングタイムは29分53秒でした。これは、インカレショート実施規則の定める優勝時間(20-25分)を越えています。試走タイムと比較した選手の力量を過大評価していました。また、会場から予選スタートまで及び予選ゴールから会場までの長距離の徒歩による誘導など全体的なスケジュールを踏まえた上で、インカレショートの醍醐味であるスピーディーなレース展開を求めるならば、大会コントローラーとしてコース距離について再考する必要があると思います。

### 4. 地図について

GPS座標取得による地図調査などにより、インカレショートに求められる高水準の地図が作成されました。また、本大会の準備における地図作成の進捗状況も、試走やその他の競技性を左右する要因を確認するに十分であったと思います。

### 5. 矢板・塩谷地域におけるオリエンテーリング大会の永続的開催のために

当地域では02年3月に矢板インカレが行われていますが、その開催にあたり渉外活動に努力をした経過があります。本大会において、実行委員会は地元との良好な関係を築くことに努めました。地元との良好な関係を築き、維持していくためには、地元へ利益を還元する必要があります。要項2において、参加者の地元への宿泊を推奨したのもそのためです。実行委員会の意向を酌んでいただき、多数の宿泊がありましたことに感謝を申し上げます。

### 6. 最後に ～公正な競技と円滑な運営の実現のために、参加者へのお願い～

インカレは、実行委員会と参加者とが公正さを保持してこそ成り立ちます。本大会を開催するにあたり、実行委員会は参加者への公正な競技の場の提供に尽くしてくれたと思います。ただ、参加者の一部には会場周辺の立入禁止エリアに入るなど、競技の公正さを損なう恐れのある行動が見受けられました。大会プログラム等をよく読み、実行委員会と共に公正な競技と円滑な運営の実現のためにご協力をお願いします。